

報 告 書

農芸化学会中四国支部中四国支部学術研究集会
若手研究者による講演会—最先端のバイオサイエンスに触れよう—
世話人 山際雅詩

当日は朝からあいにくの雨であったが、開始時刻の12時30分には会場となった岡山大学工学部6号館の13番講義室は70~80人の入りで、まずまずのスタートとなった。招待した二人の先生には予め、学生さんにも理解できるように教科書的事実から説明していただき、少しずつ最先端の研究成果にお話を発展していただくようお願いしておいた。招待講演1として、京都大学大学院医学研究科分子細胞情報学講座（現：京都大学大学院医学研究科免疫細胞生物学講座）の助手である濱崎洋子先生に、「上皮細胞の細胞間接着装置と極性」と題して講演していただいた。細胞間の接着装置であるタイトジャンクションが実は単に細胞同士をはりあわせるだけでなく、接着の程度を調節することにより、動的に物質の浸透をも調節しているという最先端のお話は非常に興味深いものであった。次に、招待講演2として、京都大学大学院理学研究科植物形態統御研究室の学術振興会特別研究員である賀屋秀隆先生に、「シロイヌナズナの形態形成におけるクロマチン再構築因子の役割」と題して講演していただいた。シロイヌナズナの形態形成に細胞核におけるクロマチン再構築因子が深く関与しているという一見意外な結果を豊富な写真をふくめたデータでわかりやすく説明していただいた。休憩をはさみ、6題の研究発表を行った。これは予め学生さんにそれぞれの研究成果を発表してもらうようお願いしていたもので、以下の題目で発表があった。研究発表1「*Bacillus thuringiensis*由来の特異的細胞損傷タンパク質による白血病ガン細胞のアポトーシス誘導」と題して天野浩未（岡山大学大学院自然科学研究科）さん、研究発表2「微生物に由来する双翅目昆虫特異的殺虫タンパク質 Cry11A のプロセッシングとその動態」と題して坂川浩平（岡山大学大学院自然科学研究科）君、研究発表3「枯草菌の *sigY* オペロンの転写と機能解析」と題して東條繁郎（福山大学大学院工学研究科生命工学専攻）君、研究発表4「エリ蚕の生体防御に関わる遺伝子」と題して鮑艶原(Bao Yan Yuan)（鳥取大学大学院連合農学研究科）さん、研究発表5「分裂酵母のユビキノン合成に関わるデカプレニル 2 リン酸合成酵素の解析」と題して西岐良一（島根大学生物資源科学部生命工学科）君、研究発表6「分裂酵母 Sla1 の haploid meiosis 誘導機構について」と題して田邊 香（島根大学生物資源科学部生命工学科）である。さらに休憩をはさんで、最後に京都大学名誉教授の駒野徹先生に、若手研究者に対するお話をいただいた。生物に学び、生物を利用するという心構えを説かれ、さらに、研究というものは自分一人ではできないものではない、これまでの先輩諸氏による研究の蓄積の上に自

分の研究があるのだ、ということをお話された。また、今回の講演会では質疑応答の時間において、学生さんからの質問がまったく無かったことから、そんなことではいけない、もっと積極的にわからないことは質問しなさい、というお叱りも受けた。非常にためになるお話であったと思う。

今回の講演会では、事前に講演プログラムと招待講演の講演要旨を綴じたものを岡山大学の農学部、理学部、工学部の農芸化学分野の先生がた宛にひとりずつ事前に発送し、講演会についてアピールすると同時に、学生さんの参加を呼びかけていただくようお願いをした。また、農芸化学会中四国支部に含まれる大学にもポスターを郵送して掲示していただくようお願いするなど、事前のPRには力を入れた。

また当日は、岡山大学の門には貼り紙を貼り、案内役として学生さんを待機させた。また会場となった6号館の入り口にも看板を立て、会場をわかりやすくした。講演会場の13番講義室の入り口にも看板を配し、スクリーンの横にも看板を天井からつるして、講演会場の設営を行った。また参加者には、一人一本ずつお茶のペットボトルをサービスした他、講演会場の隣の部屋を休憩室として解放し、コーヒーや紅茶などのサービスを行った。

このような学生及び、若手研究者主体の講演会を開催することによる研究交流は非常に有意義なことである。今後も是非機会を見つけて、今回の講演会での経験をふまえて、若手研究者の研究交流を図っていきたい。次回は今回はできなかった、ポスター発表の場を設けるなど、充実した講演会にしていきたいと思う。

最後になったが、今回の講演会に対して、若手研究交流助成金を助成してくださった、日本農芸化学会中四国支部に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

岡山大学工学部生物機能工学科
山際 雅詩

会 計 報 告 書

日本農芸化学会中四国支部よりいただいた助成金 100 千円は以下の項目に支出しました。

招待講演の演者へ交通費と謝礼 (2 名)	46 千円 (23 千円×2 名)
駒野徹先生へ交通費と謝礼	15 千円
お茶及びコーヒー、紅茶などのサービス	10 千円
ポスター、立て看板、プログラム、要旨集 の印刷費、及び用紙代、通信費	10 千円
講義室使用料及び電源コードなど会場設営費	5 千円
学生バイト代 (受付、案内、照明、時間係)	20 千円 (2 千円×10 名)
合 計	106 千円 (6 千円赤字)

おかげさまで、有意義な講演会を開催することができ、感謝しております。

農芸化学会中四国支部中四国支部学術研究集会
若手研究者による講演会－最先端のバイオサイエンスに触れよう－
世話人 山際雅詩